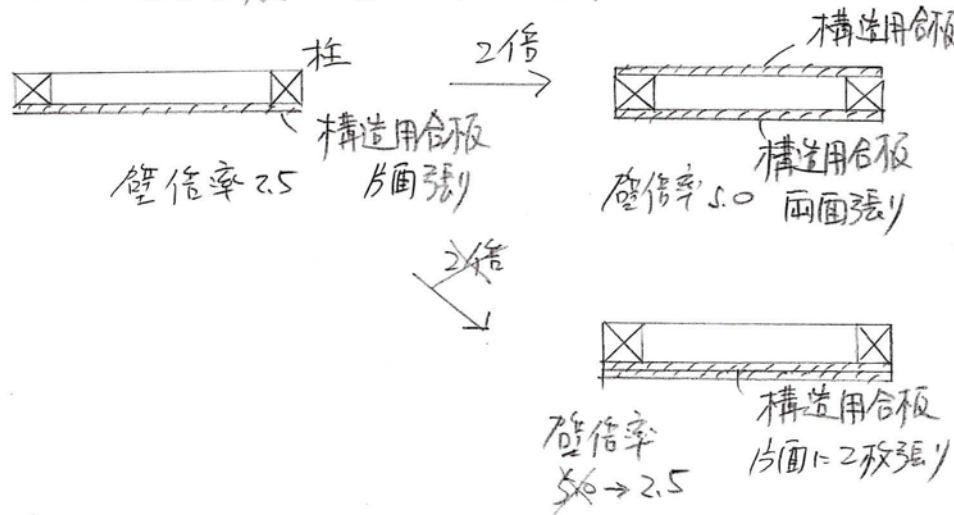


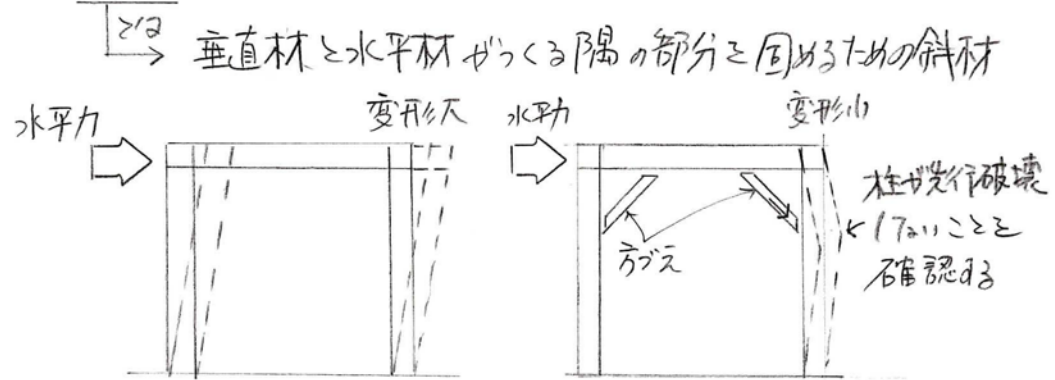
学科構造 令和3年 No10. 木造軸組工法の設計

1. 片面に構造用合板を2枚張りした壁倍率 → 片面に2枚張りした場合の壁倍率は1枚の場合の2倍と認めることができる
2. 方づえを設けた柱の先行破壊 → 方づえから柱に対して入る力が作用するため、柱が先行破壊(たわみ)を確認する
3. 圧縮力を負担する筋かいの断面寸法 → 厚さ3cm、幅9cm以上の木材は圧縮力と引張力の両方を負担できる
4. 3階建の1階柱の小径 → 13.5cm以上と(たわみ)はならぬ

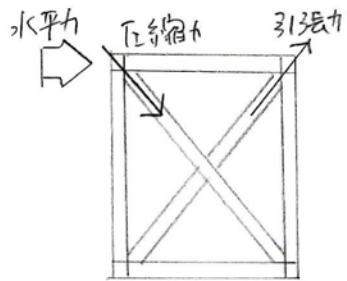
1. 片面に構造用合板を2枚張りした壁倍率



2. 方づえを設けた柱の先行破壊



3. 圧縮力と負担する筋かいの断面寸法 令第45条



厚さ3cm × 幅9cm以上の木材は
圧縮力と引張力の両方を負担できる

厚さ1.5cm × 幅9cm以上の木材は
引張力を負担できる

4. 3階建の1階柱の小径 令第43条

地階を除く階数が2を超える建築物の1階の構造耐力上
主要な部分である柱の張り間方向及び上下方向の小径は、
13.5cm以上と(たわみ)はならぬ。

